

役員会報告

1. 昭和61年度第1回理事会 (支部だより第32号79頁に報告済)

2. 昭和61年度第2回理事会 (61年9月16日、於札幌管区气象台)

出席者：吉田・伝法・菊地(勝)・小嶋・大川、(遠藤・三浦・菊池(明))

(1) 報告事項

ア. 61年度奨励金候補者の推薦は、62年度の札幌大会に備えて見送る旨の報告が吉田支部長よりなされた。

イ. 特別講演会がハワイ大学高橋助教授をむかえて、北大理学部及び低温科学研究所で行われた旨、三浦幹事より報告された。

ウ. 第4回夏季大学の実施状況と結果について小嶋理事により報告された。

(2) 審議事項

ア. 地方講演会の実行計画が審議され、次のことが決定された。

① 会場は千歳市民文化センターで10月18日(土)の午後に行う。

② テーマは「千歳付近の天気と航空気象」として講師は千歳航空測候所の会員を含む5名として司会は所長が行う。

③ ビラを用意し、これを新聞に折り込みで配布する。

イ. 次年度は支部創立30周年に当るが、これについてどの程度の行事を予定するか審議し、次のように決めた。

① 特別講演会を総会、支部研究発表会の日に行い、懇親会もあわせて行う。

② 支部だよりを増頁して記念特集号とする。

ウ. 昭和62年度秋季大会(札幌)の準備について

① 従来通り1年前から準備委員会をもうけ、大会がせまってから実行委員会を新たに組織することにする。

② 委員会の組織の人選を行い、恒例に従い、支部長を実行委員長とすることが決まった。

エ. 遠藤幹事長より、大きな事業をまえにして役員の増員の動議が出されたが見送りとなった。

3. 第1回 昭和62年度日本気象学会秋季大会準備委員会 (61年9月16日、於 札幌管区气象台)

出席者：吉田・伝法・菊地(勝)・小嶋・大川・遠藤・三浦・菊池(明)

(1) 日時・会場については次のとおり決定した。

ア. 日時は、10月14日(水)～16日(金)(13日は準備日)とする。

イ. 会場は、北海道大学学術交流会館とする。

(2) シンポジウムは講演担当理事を中心に大学側からも加わって次回までに原案をつくる。

(3) 実行委員の人選と指揮系統が審議され、次の案が立てられた。

実行委員長：吉田泰治、顧問：伝法 宏・小林禎作、実行副委員長：多田利義・菊地勝弘、会場班

総括：遠藤辰雄、受付・接待班総括：小嶋 修・巽 保夫、会計班総括：大川 隆、第1会場担当：播磨屋敏生、第2会場担当：谷口 恭、第3会場担当：上田 博、シンポジウム・式典等会場担当：遠藤辰雄、会計担当：三浦照武

(4) 予算と関連して寄付の内容と見積りを行った。

4. 第2回 昭和62年度日本気象学会秋季大会準備委員会 (61年12月3日、於 札幌管区气象台)

出席者：吉田・伝法・菊地(勝)・小嶋・大川・遠藤・三浦・谷口・菊池(明)

(1) 昭和61年度秋季大会(名古屋)の開催資料にもとずき、その実施状況の報告が遠藤によってなされた。

(2) 大会実行予算案が三浦により説明されて審議され、次のようになった。

ア. 支出は予算案通り承認された。

イ. 収入の補助金については前回と照らして交渉を開始することとなった。

ウ. 支部だよりに広告を有料で載せ、これも資金とする。

(3) シンポジウムのテーマと講師について小嶋理事より説明され次のように決定した。

ア. テーマは霧と雪の問題が挙げられたが、雪に関係した問題が選ばれ仮題として「寒気場内の小擾乱」が挙げられた。

イ. 講師の候補が挙げられ、そのうちの一部が決められた。

(4) 遠藤によって、今後のスケジュール表が提示され、懇親会の会場候補を三例ほどあげ、次回までにつめることとなった。

5. 昭和61年度第3回理事会 (62年3月9日、於 札幌管区气象台)

出席者：吉田・小嶋・大川・菊地・伝法(遠藤・谷口・三浦)

(1) 報告事項

ア. 昭和61年度事業報告が遠藤幹事長によってなされた。

イ. とくに地方講演会についてその実施状況と会計報告が小嶋理事及び三浦幹事によってなされた。

ウ. 昭和61年度の会計報告が三浦幹事によってなされた。

エ. 同会計監査報告は担当の小林禎作理事の死去により代行した菊地理事によってなされた。

(2) 審議事項

ア. 年度の終りの恒例に従い支部運営役員組織について審議されて次のことが決まった。

① 会計監査を新たに一名おくことにして、従来の理事の職務からこれを除くことにする。

② 理事の増員はしないが、常任理事の数を従来の3名から4名に増員することにした。

この二件にかかわる規約の改正は62年度総会で可決された後に施行するものである。

イ. 支部だより33号は、支部創立30周年記念号とし、その内容の原案が谷口幹事より説明され、新企画を含めて承認された。

ウ. 故小林禎作会員の葬儀に関して支部として本部の見解と支部の前例を参照して、生花と弔電を送ることに決定した。

また「天気」及び「支部だより」の追悼文については北大側で人選することになった。

6. 昭和62年度第1回理事会（62年4月24日、於 札幌管区气象台）

出席者：菊地・伝法・秋山・花房（遠藤・谷口・上田・川野）

(1) 報告事項

遠藤幹事長より転出、異動、死去に伴う役員の欠員があること、また前回理事会で規約の一部改正案が可決されていることの報告がなされた。

(2) 審議事項

ア. 転出に伴う理事の補充について

理事4名の転出異動に伴い、現行規約及び細則に従って、秋山 勉、花房龍男、松村博勝、斉藤実の4会員が理事として補充された。

イ. 支部長の選出

支部規約第10条に従い理事の互選により、秋山理事が支部長として選出された。

ウ. 支部長あいさつ、幹事の指名

あいさつの後、遠藤辰雄、谷口 恭両幹事は従来どおりで、また異動による幹事の欠員に対して新たに上田豊治、川野 浩の二会員が幹事に指名された。

エ. 理事欠員の補充

大川理事（室蘭へ転出）の扱いについては、本人より新理事会に一任する旨の報告がなされ、これを審議した結果、細則による後任が決まっていること、在札でないこと等の由、これを欠員とすることになった。従って故小林理事の後任としては、北大低温研の会員の中から選出することになり、協議の結果、現幹事長の遠藤辰雄会員が理事となることになった。ここで幹事が1名欠員となったので上田 博会員が新たに幹事に指名され、新たに谷口 恭幹事が幹事長として指名された。

オ. 常任理事の選出

規約改正を見込んで4名の常任理事候補として菊地、伝法、花房、松村の4理事が挙げられた。

カ. 業務分担

理事の業務については以下のように決った。

| | |
|-----------|------------|
| 総 括 | ：秋山支部長 |
| 企画担当 | ：菊地理事、伝法理事 |
| 地方講演担当 | ：花房理事 |
| 支部だより編集担当 | ：松村理事 |
| 夏季大学担当 | ：遠藤理事 |

幹事の業務分担としては次のとおりである。

| | |
|------------|------------------------|
| 谷口幹事長 | ：理事会の司会・事業の企画総括・幹事会の招集 |
| 上田（豊）・川野幹事 | ：事務局庶務・会計担当 |
| 上田（博）幹事 | ：支部だより担当 |

キ. 会計監査候補の選出

事務局が气象台にあるので監査は大学側からが望ましいということで、道教育大旭川の桜井兼市会員が挙げられた。

ク．昭和61年度の支部事業報告が遠藤理事よりなされ、承認された。

ケ．昭和61年度の会計及び監査報告が上田幹事及び菊地理事によってなされ、これが承認された。

コ．昭和62年度支部事業計画

秋季大会に関する件を除いて審議され以下のことが決められた。

① 第3回目の理事会は3月中旬の初めが適当である。

② 今年度は秋季大会が札幌で開催されるので、地方講演会は行わない。

③ 総会は6月10日に行う。

④ 第1回目の支部研究発表会は8題ほどにして同日に行う。

⑤ 30周年記念講演会は大学側と气象台側のそれぞれから一名ずつ選び、支部や研究の歴史に触れながらアカデミックな話ということでつめることになった。

⑥ 支部だより33号について谷口幹事より原案が出され、以下のように決まった。

○ 30周年記念号として、学会理事長、気象庁長官、道内関連学会支部長からの祝文を要請してこれを載せる。

○ 「30年をふりかえって」について短いものを多数のせる。

○ 歴代支部長の顔写真を載せる。

○ 「事務局より」を会員に開放して「通信欄」とする。

○ 新企画として「写真訪問」で新庁舎・新しい設備・観測装置等を紹介する。

⑦ 夏季大学

遠藤理事より講師の依頼状況等の説明があり科学館と相談の上進めることで担当理事に一任することが承認された。

⑧ 奨励金候補者の推薦について

支部では今年は1～2名を積極的に推薦する（8月10日〆切）

サ．昭和62年度予算案について上田幹事より説明され、これが承認された。

シ．総会準備

総会の議題を計り、この担当者の分担を決めた。

ス．規約の改正の追加

常任理事3名から4名にすること、新たに会計監査をおくことに加えて選挙規則第2条の「20日」を「15日」にすることが提案され、これが承認された。

7. 第3回 昭和62年度日本気象学会秋季大会準備委員会（62年4月24日、於 札幌管区气象台）

出席者：秋山・伝法・菊地・花房・松村・遠藤・谷口・上田（豊）・川野

ア．組織・作業指揮系統等の転出委員に対応する後任者をもってこれを充当した。その結果は次のとおりである。

大会実行委員長：秋山、副委員長：菊地・斉藤、顧問：伝法、会場班総括：遠藤、受付・接待班